

広島県偕行会29年度総会

平成29年度の広島県偕行会総会は、平成29年10月28日(土)、11時～14時に行われました。会費は、5千円(年会費千円を含む)でした。初めに護国神社に集まり、参拝(全員玉串を奉りて拜礼)の後、マイクロバスにて市内千田町の料亭「久里川」内の一室に移動しました。

参集者は、総勢15名(旧軍8名、陸自7名)でした。旧軍は、深澤嘉一會長(陸士61)、緒方昭三相談役(陸士61)、廣川忠男(同、夫人同伴)、横崎元男(同)、原田哲志(陸士59十志雄)子息、昨年も福山市から出席、日山至典(広幼47)、と私、高崎禎夫副會長(広幼48)の8名、陸自は、綿貫昌芳副會長(陸自66)、宮本宗晴(陸自67)、木松久幸事務局長(陸自68)、田所恒之輔(陸自69)、奥田虎昭(陸自70)、安永公四郎(陸自92)、山崎

満(陸自98)の7名でした(ほかに来賓として、鈴木直栄陸自第13旅団長が予定されていましたが、多忙のため、出席されませんでした)。写真は、古い、由緒ある「広島偕行会」の旗と並んで整列した、この日の参集者の全員です。

総会は、木船事務局長の司会によって、国歌斉唱、英霊・物故会員5名への黙禱に続き、会長挨拶及び全国偕行会会長会同(10月12日、東京)の報告、役員紹介、ついで、綿貫副會長・木船事務局長による会務・会計報告が行なわれました。

会長挨拶では、戦前の広島偕行社、戦後の広島陸士会を経ての本会の歴史、そして全国偕行会報告では、公益財団法人「偕行社」と全国の諸「偕行会」との組



織関係、また、「偕行会」、「偕行社」の呼称の違いに象徴される全国各地の会の活動の多様さが話されました。会務報告では、旧軍63名・元自35名の現勢から、当面、元自50名を目標に入会を促進すること、慰霊活動として、「広島比治山陸軍墓地合同追悼式」(4月8日、奉賛會長11時の外務大臣・岸田文雄は、今年も出席)、広島護国神社の春秋例大祭・招魂祭、終戦日の慰霊祭(4月9日、8月15日、10月22日)のすべてに、役員4名で出席したなどが話されました。

日山会員の乾杯に始まる会食・懇親会では、全参集者がこどもも立って、マイク片手に、時間いっぱい、思いのたけを語ってくれました。予めの期待をはるかに上回る、自己紹介や、率直な各自の思いの開陳でした。会は、豊かな笑いの中に、一挙に親睦の度を深めました。

恒例の歌の競演は、「陸軍士官学校校歌」の1番8番と、「陸自幹部候補生学校校歌」の1番2番でした。そして最後は、私による、会誌「偕行」の薦めと、本会の栄華を折つての万歳三唱をもつて、笑顔のうちに、再会を期し散会しました。

(副會長 高崎禎夫 広幼48)